

1. 主な研究内容について

・運動機能回復学講座

医学的リハビリテーションの中核をなす理学療法学分野において、最も中心となる治療技術と理論の体系が運動療法学です。運動機能回復学講座では、運動療法学を研究分野の中心に据え、身体運動機能障害の評価と治療ならびに予防に資することを目的に研究を行っています。具体的には、筋力増強運動や伸張運動における筋の機能的変化、関節疾患や加齢による運動機能低下とその回復手段の開発、歩行能力向上や転倒予防について、特に重心移動速度に着目した研究活動を行っています。

2. 主な共同研究先

大阪府立急性期・総合医療センター、大阪大学医学部附属病院

3. 今まで指導した学位論文名

〈修士論文〉

2011 年度：『股関節外旋筋群の疲労による筋力低下が歩行に与える影響』

『高齢者の椅子からの立ち上がり動作と動的立位バランスの関連性についての研究』

2012 年度：『180° 方向への繰り返し動作の動作特性と膝関節モーメントに関する生体力学的研究』

『肩関節外旋運動における内転の有無による棘下筋と三角筋の筋活動特性に関する研究』

『棘下筋に対する選択的トレーニング方法の開発に向けて』

『人工膝関節全置換術後患者における入院期間中の身体活動量と術後運動機能回復に関する研究』

『肩関節機能の加齢変化と性差に関する研究』

2013 年度：『瞬発的な運動課題における下肢筋の筋力発揮特性に関する研究』

『座位反復体幹回旋運動の動作特性と歩行パラメーターとの関係について』

『通常歩行における重心移動特性とタンデム歩行に関する研究 -筋活動のタイミングとの関係について-』

2014 年度：『立位における随意的前方重心移動時の姿勢制御戦略と静的および動的バランスの関連性について』

2015 年度：『腰椎固定術後の座位重心動揺と歩行能力との関連について』

2016 年度：『ステップ長またはケイデンスの増大による歩行速度増大における股関節屈曲と足関節底屈の運動力学的比率の検証』

2017 年度：『下肢筋の筋力発生率と外乱刺激時の前方ステップ動作の関連』

4. 主な論文・著書

- ・ S Fuchioka, A Iwata, Y Higuchi, et al. A modified seated side tapping test in which the arms are crossed also reflects gait function in community-dwelling elderly. J. Phys. Ther. Sci, 29: 1598-1602, 2017
- ・ 淵岡聡, 岩田晃：運動器の運動療法とは。小柳磨毅ほか編：運動器の運動療法, 医学書院, 12-13, 22-27, 2017
- ・ 淵岡聡ほか編著：今日の理学療法指針, 医学書院, 2015
- ・ Fuchioka S, Iwata A, Higuchi Y, et al. The forward velocity of the center of pressure in the mid-foot is a major predictor of gait speed in older adults. International Journal of Gerontology, 9(2):119-122, 2015
- ・ 淵岡聡：頸椎疾患と腰部脊柱管狭窄症の理学療法。小柳磨毅ほか編：骨関節理学療法学, 医学書院, 201-222, 2013
- ・ H Kawamura, S Fuchioka, et al. : Restoring Normal Gait after Limb Salvage Procedures in Malignant Bone Tumours of The Knee. Scandinavian Journal of Rehabilitation Medicine, 31(2): 77-81, 1999

5. 現在の指導している大学院生数

M1：2名、M2：1名、D2：2名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

- (1) 運動器疾患の理学療法臨床における「印象」や「疑問」の科学的解明・解決にじっくりと取り組む意欲と時間のある方、
- (2) 運動器障害の成因究明やその解決策に役立つ基礎的研究、運動器の機能障害の解析的研究に興味がある方、を希望します。